

新本庁舎建設 ニュースNo.12



3階の柱と梁の組み立てが はじまりました

4月11日から3階部分の柱と梁の組み立て工事がはじまりました。また、1階では外壁の下地(骨組み)工事も始まっています。



2階部分の柱まで工事が進んだ様子(4月9日撮影)

●第3回現場見学会を開催

3月23日に現場見学会を開催し、午前、午後合わせて79人の皆さんが参加しました。このうち小中学生の皆さんは7人が来場し、「どうして免震装置は地震の揺れを止めることができるのか」や「大きなクレーンの金額は」などの質問がありました。次回の見学会は、建物内の見学ができる8月ころを予定しています。



現場見学会の様子(3月23日撮影)

本庁舎内庁舎建設推進課
TEL71・2000(代) FAX71・5000

■協働のまちづくりフォーラム開催

市では3月15日、「協働のまちづくりフォーラム」を堀金総合体育館で開催しました。

この催しは、本年度、市が策定した「協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」を市民の皆さんに知ってもらうために開催したものです。

当日は、市民など約1500人

が参加。冒頭、同計画策定・評価委員会会長の内川勝治さんが計画を紹介した後、計画策定に

携わった松本大学講師の福島明美さんによる「絵に描いた計画にしないために」各々ができること」と題した講演が行われました。

講演で福島さんは「協働は目的でなく手段。それぞれの立場と力を生かして、子どもたちの

未来を拓く地域づくりを目指しましょう」と会場に呼び掛けました。

会場では、協働のまちづくりを担う区、市民活動団体、企業、行政のそれぞれの立場から出席した4人によるパネルディスカッションも行われ、地域づくりを進める上でそれぞれが持つ課題などを話し合いました。



パネルディスカッションの様子

■第3次情報化計画を策定

市情報化計画策定委員会(委員長・六浦光一信州大学経済学部教授)は、第3次市情報化計画をまとめ、六浦委員長が3月27日、本庁舎で宮澤市長に計画書を提出しました。宮澤市長は「各担当部署で検討し、できることから取り組んでいきたい」と話しました。

計画書は情報通信技術(ICT)

(I)を生かしたまちづくりの基本方針となるもので、基本目標を「みんなで作る情報都市あづみの」とし、6つの基本方針を掲げ、それぞれの取り組み内容を示しています。

このうち「誰もがICTの恩恵を受けられるために」では高齢者向けパソコン講習会やタブレット端末など情報機器の体験



計画書を手渡す六浦委員長(写真右)

教室の開催を盛り込み、新本庁舎開庁に合わせ、待ち時間の短縮などを狙いとした総合窓口システムの導入や「安心して暮らせるために」では災害時の情報伝達手段の強化や災害用ホームページの充実を求めています。

同計画書は市ホームページや各支所、各図書館、市民活動センターで閲覧できます。

■市消防団のあり方 消防委員会が最終答申

市消防委員会(中野博夫委員長)は3月26日、市消防団の組織の見直しなどをまとめた第4次答申を宮澤市長に手渡ししました。

今回の答申は、平成21年1月に受けた諮問のうち「消防団補助金のあり方に関すること」と「火災出場範囲の見直し」について応じたもので、今回の答申が最終になります。

このうち消防団補助金のあり方については、分団の下部組織にあたる「部」を基準に「均等割」と「団員数割」とで交付している現在の補助金制度を見直し、火災出動時の団員の出動実績を重視し「出動謝礼」に重点を置き増額をしよう求めています。

また、「火災出場範囲の見直し」については、現在、旧町村

単位で構成する「ブロック」制により、ブロック内の全分団が一律出動している体制を見直し、火災状況などから出動する分団の順位を決め、団員の負担軽減を求めています。

宮澤市長は「災害に備えて、これまでの答申も含め、消防団の充実に取り組み、自主防災組織へ団員経験者の参加なども呼び掛けていきたい」と述べました。



答申内容を説明する中野委員長(写真中央)